認定／特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN　Newsletter　2019.3.31 発行

IV-NEWS

Vol. 35

外務省 日本 NGO 連携無償資金協力署名式　新事業がスタートします！

署名後、握手を交わす日本大使と冨永。教育スポーツ省副大臣やビエンチャン都教育長も参加

2019 年 3 月 1 日に、在ラオス日本大使館にて NGO 連携無償資金協力の署名式が行われ、新事業「地方の女性・青年の就業促進のためのホスピタリティ・介護職業訓練」が同日付でスタートしました。これは日本の国際協力の NGO が開発途上国で実施する経済社会開発事業に外務省が資金を供与するもので、国民の税金が使われています。

また、3 月 29 日にはラオスの本事業のカウンターパートであるビエンチャン都教育局において事業契約調印式（Memorandum of Understanding＝MOU）を行いました。ラオス政府から事業実施のための許可が出て、協働するカウンターパートと契約書を交わしました。

ラオスは社会主義の国ゆえ、事業実施の許認可に時間がかかり、昨年 10 月 29 日に全関係者（ナーサイトン郡、ビエンチャン都、教育スポーツ省、外務省）を一同に会して、事業内容と予算を説明し、コメントを頂き修正して、正式に順々に承認サインを頂き、最終実施許可が下りたのが 3 月 26 日、それから調印式の出席者招待状配布、バナー注文、会場準備等 3 月 29 日実施に漕ぎ付けるのがやっとでした。5 カ月間を要しましたが、これは大変短い期間で、他団体は 1 年以上かかっているところもあります。（事業概要は 2 ページを参照ください）

本事業はビエンチャン都ナーサイトン郡に訓練所を建設し、特に今まで教育を受ける機会のない貧しい女性、青年に「チャンパー山の民奨学金」を創設して、初級・中級コースの 6 カ月間の交通費、食費等を支給し、無料で訓練を受けることができるように、配慮しました。

山の民奨学金ドナーの皆様に本当に感謝です。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業（N連事業） 概要

事業名：地方の女性・青年の就業促進のためのホスピタリティ・介護職業訓練
事業地：ビエンチャン都ナーサイトン郡
事業期間：2019年3月1日～2022年2月28日(3年間)
事業予算(3年間)： 約73,000,000円
事業内容：

国際協力NGO・IV-JAPANは、「地球規模で考え、地域で行動する」をモットーとし、アジアの開発途上国、ラオスやタイ、ネパールで活動を行っております。特にラオスにおいては主に教育の分野において様々な支援活動を行い、これまでに小学校21校と職業訓練所を8校建設し、職業訓練においては縫製・調理・理美容・木工の分野を通して、女性、青少年の精神的・経済的な自立を願っております。

ラオスは後発開発途上国（LDC）からの脱却を目指した社会経済開発により、近年は年8%の経済成長を達成していますが、その恩恵を受けているのは主に都市部の住民に限られており、地方では未だ貧困に苦しむ住民が多く存在します。またラオスは50の民族からなると言われていますが、極めて少ない少数民族も含めると130民族とも230民族とも言われています。これらの民族は主に都市部から遠く離れた地域に居住し、教育や職業訓練を受ける機会が少なく、職を得ることも難しいのです。

そこでIV-JAPANは、既存の職業訓練分野に加え、ホスピタリティ及び介護事業に着目しました。昨今では世界からの観光地として人気が高く、ホテルも増加傾向にありますが、ホテル従業員の人材不足が課題となっており、質の高いホテルサービス、つまりホスピタリティが求められています。一方、介護分野において、ラオスは高齢者の長期滞在や旅行先、リタイアメント先としても注目されており、今後は基礎介護技術を持つホテルパーソン、家事代行者、介護施設や長期滞在型マンションの人材の需要も増える見込みです。

本事業では、新たな分野における人材育成を目標とし、地方に住む貧困家庭の女性および青年に加えて、遠隔地に住む少数民族も対象とした職業訓練を実施し、就業による生計向上を目指します。初級コースではホスピタリティ技術を習得し、家事補助やホテル等への就業を、中級コースでは更に高齢者介護の知識・技術を学び、更なる就業を目指します。本事業達成のためにIV-JAPANでは新たに「チャンパー山の民奨学金」を創設して6カ月間の初級・中級コースの期間中交通費、食費等を支給して側面から訓練生をサポートします。

産官民連携事業として、カウンターパートはビエンチャン都教育局、ナーサイトン郡教育課とともに、公務員のマネージャー育成やトレーナーを育成し、事業の継続を図ります。
ラオスホテル・レストラン協会と連携し、訓練生のインターン先や就職先についても協力関係を保ち、さらに日本人専門家が指導する場合には同協会の会員も受講できる便宜を図ります。

N連事業 プロジェクトマネージャーごあいさつ

はじめまして。

この度、ホスピタリティ訓練事業のプロジェクトマネージャーを勤めさせていただきます、古山裕基と申します。わたしはタイと日本で長年、看取りに関わってきましたので、この事業に関われて、うれしく思います。この事業の目的は、ラオスの人に、“彼らが自然に持つホスピタリティ”を、整理し、意識化していくトレーニングをすることで、“お金をいただく仕事にする”ことです。

わたしは、ラオスの人たちにとっては兄弟のようなタイ東北部に長年住み、また同地にあるコンケン大学看護学部で学びました。そのときに、わたしが印象に残っているのは、普段のくらしの中で、高齢者や小さな兄弟を面倒みることと、お客さんを温かく迎える姿でした。ホスピタリティが特別なものでなく、あたりまえの生活の一部としてある。それは、ラオスの人も同じでしょう。しかし、あたりまえであるからこそ、この事業の難しさがあると思います。それらを、乗り越えていくよう努力する次第です。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。 *古山裕基*

※編集部注
タイのコンケーン大学で看護学を学び、また長年介護分野で活躍されています。2006年-2008年には、青年海外協力隊員としてベネズエラへ、エイズ対策のボランティア活動に従事しました。

彩の国さいたま国際協力基金助成金事業　完了報告

2019 年 12 月 7 日から 2019 年 12 月 29 日にかけて、ネパール・ゴルカ郡・パティスワラ村にて、平成 30 年度彩の国さいたま国際協力基金助成金を活用し、「パティスワラ村の女性収入向上のための職業訓練（手工芸）事業」を実施しました。同郡は 2015 年に発生したネパール中部地震で甚大な被害を受けた地域で、IV-JAPAN は地震発生当時から継続して支援を続けています。本事業では、手工芸制作の専門家を日本から派遣し、村の女性グループを対象とした手工芸職業訓練を実施しました。また、首都カトマンズにて手工芸品の販路開拓調査も実施しました。事業の詳しい実施内容と成果は次の通りです。

１．手工芸職業訓練用資機材の導入

村に、手工芸制作に必要な資機材が導入された

ネパール・ゴルカ郡・パティスワラ村に、手工芸職業訓練のための資機材（足踏みミシン4台、アイロン4台、アイロン台4台、かぎ針、その他材料）を導入しました。本事業の実施前、村には手工芸の作成に必要な資機材が十分に揃っていませんでした、今回資機材を導入したことで、継続的に手工芸の制作を行うことが可能になりました。また、資機材や材料の調達に村の女性グループのグループリーダーも同行したことで、手工芸の制作に必要な資機材等の調達のノウハウを学ぶことができたため、今後は彼女たち自身で必要に応じて資機材を調達し、手工芸製作を継続して行うことが可能になりました。

２．短期派遣専門家による手工芸職業訓練の実施

日本から手工芸品製作の専門家1名を同村に派遣し、村の女性グループ60名を対象に、1週間の手工芸職業訓練を実施しました。村の女性たちにとって、本事業が初めての手工芸職業訓練の受講であったので、ミシンを使った小物手芸やかぎ針手芸、アイロンの使い方などの初歩の初歩から訓練を開始しました。初めての職業訓練の受講に、参加者は全員高い関心を示し、一生懸命手工芸制作の練習に励んでいました。専門家は、村民の日々の暮らしの中で有効に活用できるような、財布、小バッグ、スマホケース、食器洗いニット、鍋敷き、コースターなどの小物づくりの手法を指導し、参加者全員がミシン縫いや手縫い、かぎ針の技術を身に付けることができました。

職業訓練の様子

職業訓練の作品

３．首都カトマンズにて手工芸品の販路開拓調査の実施

専門家、冨永（当会代表理事）、河島（当会理事）の3名で、首都カトマンズにある3か所のフェアトレードショップを視察しました。そのうちの1か所は、NEPAL CHARKHA PRACHARAK GANDHI-TULSI SMARAK MAHAGUTHI（通称：GA）の運営するフェアトレードショップで、同団体の職業訓練所も視察し、理事長と面会しました。GAは現地で100年職業訓練事業を実施している、ネパールで一番長い歴史を持つNGO団体で、お互いの職業訓練について情報交換をすることができ、今後GAと当会は協働し活動していくことなりました。

また、今後のネパールでのNGO活動のための情報収集のため、JICAネパール事務所、SVA（シャンティ国際ボランティア会）ネパール事務所も訪問しました。

GA フェアトレードショップ

GA 職業訓練の様子

JICA 木工　ラオス職業教育校のトレーナーの技能向上プロジェクト

モニタリングの様子

【モニタリング】

2018 年 6 月 25 日～8 月 31 日に実施した、第 1 回木工トレーナー技能向上研修の参加者に対するモニタリングを、2018 年 11 月から 2019 年 2 月にかけて実施しました。石橋幸治インストラクターおよび IV-JAPAN トレーナー、VEDI（教育省職業教育開発研究機関）トレーナーが協力し、地方校 10 校において研修で得られた技術が、どの程度学生実習に活かされているかを評価しました。また VEDI では日々の学生実習を通し、VEDI トレーナーの評価も行いました。地方校 10 校のうち 8 校では、概ね得られた知識と技術を日々の実習に活かしていました。今後の課題は比較的評価点が低かった 2 校へのサポートです。また産学民協働により研修に参加した技術者 2 名が勤務する Khamphay Sana 木工会社へのモニタリングも行ったところ、習得した技術を日々の家具生産に活用していることが分かりました。モニタリング結果等を踏まえ、今年 6 月からの第 2 回技能向上研修の内容や短期派遣専門家の策定を進めています。2019 年 4 月からは石橋インストラクターが再びラオスへ赴任し、次回研修の準備に本格的に取り掛かります。

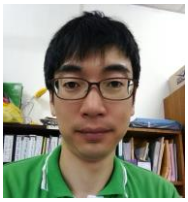
IV ブース（木工家具フェア）

【各種家具フェアへの出展】

2019 年 1 月 12 日から 20 日まで開催された、第 5 回木工家具フェアに IV-JAPAN と VEDI 協働でブースを出展しました。本研修プロジェクトや製作した家具の紹介に加え、日本の木工技術紹介として塗装や継手のサンプル展示や石橋インストラクターによる刃物研ぎの実演・指導を実施しました。フェア中は家具や展示品に興味がある方がたくさん訪れましたが、家具をオーダーしたいという方からのお問合せも多く、また研修には参加できなかったビエンチャン県技術学校の木工トレーナーの方々は、本研修に興味があるようで、研修の一部でも参加できないかという相談も受けました。隣のラオス美術大学のブースの木材彫刻のトレーナーは、石橋インストラクターから鑿（のみ）の研ぎ方の指導を受けていました。

また 2019 年 3 月 23 日から 30 日には、第 4 回ビエンチャン家具フェアにも出展し、VEDI 学生もブース出展のサポートをしました。ラオス家具協会から、是非何か実演してほしいという申し出があり、今回は学生による椅子の組み立ての実演を行いました。この椅子は、石橋インストラクター指導による椅子で、本研修の成果を家具組合からの出店者や来場者の方に知っていただくことができました。

JICA 木工　プロジェクトマネージャーごあいさつ



はじめまして。飯村浩プロジェクトマネジャーの後任の田澤克之です。プロジェクトマネジャーとしての目標は、家具「職人」として高いプライドと誇りを持つことのできる職業教育の実現です。日本では、手に職を持っている人々は「職人」として尊敬されますが、ラオスでは、まだまだ手に職を持っている人々に対する尊敬の念が欠けているように感じます（だから、いろいろな「もの」の品質が高くならないことにつながっているように思います）。このプロジェクトを通じて、家具作りがいかに専門性が高く、高度の技術を必要としていて、だから職業としてとても立派なものであるという部分を各職業教育校で働く家具作りの先生や学生に伝えていきたいと思います。最後になりましたが、IV-JAPAN での仕事を通して、ラオスの教育の発展に少しでも多く寄与できるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

田澤克之

※編集部注
2010 年-2012 年に青年海外協力隊員としてラオスに赴任され、ラオス南部サラワン県の小学校でボランティア活動に従事しました。ラオス生活も長く、ラオス語も堪能です。

幸子のラオス便り　No. 41

【ラオスの民族楽器ケーン】

ラオスの民俗楽器ケーンは 2018 年 3 月に、ユネスコの世界文化遺産として登録された民族楽器です。ケーンという笛は、16 本の長い竹の管でできていて、それぞれに金属製の小さなリードが付いています。竹管の長さにより、長いと低い音が出て、短いと高い音が出ます。通常は 1 メートルくらいの長さですが、3 メートルのものもあります。西洋音階の 2 オクターブの音が出ます。
日本の雅楽の笙を大きくしたようなものをご想像下さい。それぞれの竹管は、息を吹いても、吸っても同じ音が出ます。通常ケーンは民謡歌手の伴奏に使われます。リズムをとるために太鼓なども一緒に伴奏に使われます。内容はどんなものでも同じ伴奏になります。

ラオスの民俗音楽の即興詩的な歌詩はとてもおもしろく、典型的な物を紹介したいと思います。歌い手である女性が、想いを寄せる男性に対して歌う場合の歌詞で、想いは募るけれど、なかなかうまくはいかないものだということが、身のまわりの自然や日常生活の些細なシーンをうまく使って表現しています。

「プータイ族の語り歌」（虫明悦生翻訳）

黒い瞳の視線に会った
手の指一杯の指輪たち
兄さんは　前ぶれもなくやって来た

微笑みかけて　私の方にやって来た
買ってもないのに　なぜ指一杯に
花の香る私のもとに

でも　花の実は熟しているのに
この私　空を飛ぶコウノトリを見た
歌う私　小さな黒いカラスのよう

手を伸ばしても届きはしない
雲の上で風に泳いでた
飛べはするけど高くは飛べない

ああ兄さん　あなたは空を渡るお月様
明るく照らして
ねえ兄さん　九本の川

十五夜の満月の方
私を探して見てちょうだい
十本の川でも探しに行くわ

メコン河は川幅広い大河だけれど
なのに　人の想う心は

竿を突き突き　舟で向こうに渡れてしまう
恐る恐る進んで行っても届かぬもの

ケーンを演奏する
虫明氏

切ない恋心を様々なたとえで歌っているのですが、原語ですともっと卑猥な言葉も使われていますが、皆様のご想像にお任せします。

ケーンはもともと精霊信仰の儀礼として、神様を送迎するのに使われました。
モン・クメール系のラオスの先住民族ラオトゥンが盛んに演奏していました。彼らはラオスの南部に主に居住しています。現在はラオス全国で盛んに演奏され、演奏会というのはあまりなく、個人の家のお祝いごとや、法事・お葬式など、様々な機会に、ケーン、太鼓、歌手からなる民俗音楽集団、いわゆる旅芸人の様なプロ集団が呼ばれます。
虫明さんによると、歌詞については、ラオスの生活文化を知っていないとなかなかわかり難い面があるそうです。田植え、狩り、漁業、調理等の方法等、今では知られなくなった生活様式・文化も歌詞に残っていて、それを保存、記録するのはとても大事なことですが、だんだん意味が分からなくなったり、伝承する人も少なくなっているようです。

2018 年 3 月にケーンがユネスコ世界文化遺産登録されることが決まった時は、その調印に、ラオスの副首相がパリのユネスコ本部に出向きました。発表と同時に、全国から 200 人のケーン奏者がラオス国立文化ホールに集い、大演奏会が開催されました。その中には唯一の日本人虫明さんを初め、フランス人やイギリス人の演奏家もいました。めったに一堂に会することがないケーン演奏家 200 人のケーンの音色は荘厳だったそうです。
ケーンの伝統を守り、また新たな音楽文化も広がっていくように願っております。

千客万来

【2019 年 2 月 12 日～17 日　　加納則子 様　川鍋佳代子 様】

冨永家にて朝食を食べるお二人
左：加納さん、右：川鍋さん

代表の冨永さんと繋いでくれる友人が現れ、一味違ったラオスを体験することに。冨永さん宅のホームステイ、モン族のガイドイェンちゃんの実家訪問、代表が招待された都会のパーティーに一緒に参加したりと、田舎と都市の二つの局面からラオスの実情を覗くことができたのです。ボランティアと縁のなかった私に未知の世界の出会いをもらいました。第一のお気に入りのラオス料理はカオソーイ！唐辛子スープに肉みそのライスヌードルです。レストランでは足元に猫が寝転び、ゆったりとした時間が流れています。その中にはちょっとシャイな感じのラオス人の笑顔。3 度目のラオスはいつでしょう？

川鍋佳代子

昨年、ラオスで活躍している冨永さんのテレビ放送を観ていると、彼女と一緒に写っている自分をみてビックリ！それが縁で日本で再会することになり、ラオスに遊びに行くことになりました。
鶏の声に起こされ、早朝の托鉢、昼は観光、ナイトマーケット、アッという間に時間が過ぎました。ラオスは女性がよく働き、母親と幼子がナイトマーケットで夜遅くまで頑張る姿に感動しました。たくさんの良い思い出ができ、冨永さんに感謝の気持ちでいっぱいです。　*加納則子*

【JENESY2018（長崎県立諫早高等学校）　2018 年 12 月 24 日　21 名】

外務省の推進する対日理解促進プログラム JENESYS2018 のラオス派遣事業で、長崎県立諫早高等学校の学生、引率者 18 名と訪問させて頂きました。限られた時間のなかで事業の説明や冨永代表との質疑応答セッションも設けていただき、OJT では日本食に理美容体験と非常に盛りだくさんの内容を楽しみました。参加学生にとってこの訪問は、「日本とラオスの強い結びつきを知り」、お金だけではない、「実際に現地に出向き、現地の様子、現地の人との交流を通していかにして、発展させていくかを考えている」、「日本のラオスに対する寄り添う支援」を実感する機会になったようです。美味しい日本食やマッサージもタイトなスケジュールの疲れを和らげてくれました。ありがとうございました。　*日本国際協力センター　和田直（プログラム担当）*

【芝浦工業大学スタディツアー　2018 年 2 月 28 日　20 名】

私自身、今回初めてスタディツアーに参加させてもらい、とても緊張した初ラオスでした。その中で、ラオスの方々の親しみやすさや価値観は、人生の視野を広げてくれるものだと感じました。また、IV-JAPAN 木工職業訓練校で行った三角関数の授業は、数学教員を目指している私にとって、とてもいい経験になりました。
1 週間という短いツアーでしたが、帰ってくるとどこか心に寂しさが残ってしまうようなとてもよい国でした！異文化の方々と交流することができたことは私にとってとても大きな財産です！たくさんの貴重な経験をさせていただきありがとうございました。　*芝浦工業大学　厚 颯*

【高経経済大学スタディツアー　2019 年 3 月 14 日　9 名】

今回、野崎謙二ゼミのフィールドワークで IV-JAPAN 様を訪れました。私はラオスに来るのは初めてで、日本人が非営利組織として 30 年も前から東南アジアのために活動していることに感動しました。また、今回は実際に研修生の皆さんにフットマッサージやネイルなどをしてもらいました。手先が器用なラオスの方々のクオリティに皆で満足しました。研修生の中には卒業後、自ら店舗の運営をし、家計を支える人もおられるそうです。研修期間だけでなく、アフターケアにも配慮する素晴らしさにも驚かされました。
ラオスでの活動という難しい制約の中で、冨永代表を先頭に献身的に活動している IV-JAPAN 様を応援していきたいと思います。ありがとうございました。　*高崎経済大学　大津菜々子*

国内活動

グローバルセミナー2019（2019 年 2 月 10 日　コーププラザ浦和）

講師を務めた IV-JAPAN 飯村

グローバルセミナー2019 は「パートナーシップで取り組む SDGs」をテーマに開催されました。午前中は「JICA 教師海外研修」の「ザンビア・コース」及び「ベトナム・コース」への参加者による、派遣国と日本の比較紹介やグローバル市民としての視点を気づかせるワーク等でした。午後は高校生、自治会、報道機関、NGO という 4 つの異なる立場からのグローバルな取り組みについて報告した後、活発なディスカッションが行われました。今回は IV-JAPAN の支援事業を SDGs とパートナーシップという視点からお話しました。IV-JAPAN の職業訓練事業は、人々を 4. 質の高い教育により 8. 働きがいに導くことを目標としているが、カウンターパート等との 14. パートナーシップによる目標達成が不可欠であることや、教育支援事業が地域社会にもたらす効果やステークホルダーとの関係・連携について紹介することで、NGO が実施する国際協力について、参加者が理解を深められるように工夫しました。

木工プロジェクトマネージャー　飯村浩

ラオス料理教室（2019 年 2 月 2 日　大宮・桜木公民館調理室）

写真手前：ラープ、写真奥左：カオニャオ
写真奥右：ゲーンノーマイ

大宮・桜木公民館の調理室でラオス料理教室を実施しました。今回調理したラオス料理は、カオニャオ（もち米）、ゲーンノーマイ（たけのこスープ）、ラープ・ムー（豚ひき肉と香草のサラダ）の 3 種ですが、講師がラオスのスイーツを用意してくれました。講師を担当したのはラオス出身・日本在住のティアンさん、ブンロムさんご夫婦で、参加者は 15 名。終始にぎやかな雰囲気で調理実習が行われ、日本の食材で美味しいラオス料理を作ることができ、大好評でした。

ドナーの声　　星野芳郎　様　ラオス料理教室参加者

参加者の皆様と

IV-JAPAN とは、ある縁で支援のお手伝いをさせて頂くことになりました。配布されたニュースレターにラオス料理講習の案内があり、イベントに参加することが無かったので家族、知人で参加させて頂きました。ラオス料理は食べるのも見るのも初めてでしたので、作って食べることが出来るラッキーなイベントでした。初めてラオス料理を作る機会なのでどのようなことになるか心配でしたが、日本在住のラオス人講師の心のこもった事前準備、指導、参加者の協力により時間内に無事完成しました。

試食タイムになりラオスの習慣に従い手を使っての食事にも挑戦し、ラオス料理を楽しむことが出来ました。料理の緑色の出し方、ひき肉の炒め方など多くの発見がありました。他グループの味見もさせて頂き楽しい時間となりました。

イベントを通じてラオスについての理解が深まり、これからもイベント参加を通じてさらに理解を深めたいと思います。

お知らせ　※3、4 のイベント詳細は当会ホームページもご参照ください。

1．NHK ラジオ深夜便　4 月 20 日（土）0 時 10 分ごろ（19 日深夜）
2．NHK ラジオ「マイあさ」　5 月 22 日（水）　8 時 5 分から
3．国際友好フェア 2019　5 月 3 日、5 月 4 日　市民の森・見沼グリーンセンター
4．板橋グリーンフェスタ 2019　5 月 18 日、19 日　赤塚植物園

4 月から始まった新番組で、冨永が 8 週間に一度レギュラー出演、ラオスについてお話します。

【 寄付者一覧（2018 年 12 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）】 ※順不同・敬称略

【 チャンパー山の民奨学金　寄付者一覧 】

石坂幸子（60,000 円）

【 カノック奨学金　寄付者一覧　1 口 12,000 円】

蛭間愛子（1 口）、西条喜子（1 口）、松茂良米子（2 口）、ガールスカウト千葉第 45 団（1 口）、金　地映（1 口）、奈良伊世（1 口）、伊東慶子(1 口)、塩川悠子（1 口）、根橋淑江（1 口）、南風原景子（1 口）、稲葉尚子（1 口）、田村福代（1 口）、宗像邦司（1 口）、嘉数和子（1 口）、廣田知彦（1 口）、嶋　美喜子（4 口）、宮村　肇（10 口）、大竹千歳（3 口）濱口敏行（3 口）、大野宏江（3 口）、上原　望（1 口）、黒田　歩・浩己（1 口）、早坂弘子（1 口）、小林佳代子（1 口）、渡久地澄子（5 口）、仲地伸枝（1 口）、ガールスカウト大阪府第 61 団（1 口）、春日曠（1 口）、込山まち子（1 口）、荒井みど里（1 口）、みどり幼稚園みどり会（5 口）、大橋國江（2 口）

【 国際協力費・運営費　寄付者一覧　※2,000 円未満は省略させて頂きます。】

蛭間愛子（3,000 円）、冨永幸子（200,000 円）、伊藤裕子（3,000,000 円）、原國倍子（3,000 円）、林　千根（5,000 円）、上田敦子（3,000 円）、齋藤友美恵（3,000 円）、田中誠吾（3,000 円）、武居近子（3,000 円）、上田義朗（3,000 円）、安村美智子（5,000 円）、田村福代（3,000 円）、(有）イチカワ北海食品（10,000 円）、大野宏江（104,000 円）、早坂弘子（3,000 円）、小林佳代子（3,000 円）、込山まち子（8,000 円）、荒井みど里（3,000 円）、川鍋加代子（2,187 円）、加納則子（2,187 円）

【 ラオス水害支援 2018】

豊田利久（10,000 円）、赤松　明（10,000 円）、嘉数和子（10,000 円）、(有）イチカワ北海食品（10,000 円）、栗林　聡（100,000 円）

【 ドナー募集 】

○カノック奨学金、国際協力費・運営費、チャンパー山の民奨学金、各ドナーを随時募集しています。

①カノック奨学金ドナー　　12,000 円以上
②国際協力費・運営費ドナー　個人:3,000 円以上／団体・法人:10,000 円以上
③チャンパー山の民奨学金　　60,000 円以上

○申込方法　※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。

郵便振替　:（口座番号）　00140-5-537168　**（加入者名）IV-JAPAN**
銀行振込　: 埼玉りそな銀行浦和中央支店　普通預金　口座番号:5038052

認定・埼玉県指定　特定非営利活動法人　国際協力 NGO・IV-JAPAN

当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

日本事務局
〒330-0856　埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2-101
TEL/FAX:048-622-8612
E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp
http://iv-japan.wix.com/iv-japan

ラオス事務所
P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR
TEL/FAX : +856-21-316047
E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

タイ事務所
Continental Mansion 34/7 Soi Lertpanya (Rajavithi9),
Rangnam, RajavithiBangkok 10400 Thailand
E-mail: valaikorn@hotmail.com

（IV-JAPAN QR コード）　（アカウンタービリティセルフチェックマーク）